

◎意見書が必要な病気

病名	主な症状	休園の期間	潜伏期間	侵入経路
はしか (麻疹)	発熱、せき、鼻水、目やに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より発疹。	解熱後した後3日を経過するまで	8～12日	空気 飛沫 接触
三日ばしか (風疹)	発熱、発疹、耳の後ろ、首、わきの下などが腫れる。せき。結膜充血。	発疹が消失するまで	2～3週間 (14～23日)	飛沫 接触
みずぼうそう (水痘)	水疱のある発疹がからだ中に次々とする。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく。	すべての発疹が痂皮化するまで	2～3週間 (10～21日)	空気 飛沫 接触
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	37～38℃の発熱。まず片側、ついで両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む。食欲不振。えん下困難。	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が始まってから5日を経過するまで、かつ全身状態がよくなるまで	2～3週間 (12～25日)	飛沫 接触
百日せき	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからコンコンと咳込んだ後にヒューヒューという音を立てて息を吸う。	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を経過するまで	1～2週間 (7～10日)	飛沫 接触
インフルエンザ	発熱、頭痛、腰痛、全身の倦怠感、鼻づまり、くしゃみ、たんなど。	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで	1～4日	飛沫 接触
咽頭結膜熱 (プール熱) アデノウイルス	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ。	主要症状が消退した後2日経過するまで	2～14日	飛沫 接触
溶連菌感染症	発熱、咽頭痛、粟粒大の赤い発疹。痒み、咳、舌がいちごのようにブツブツになる。咽頭発赤。	抗生剤治療開始後24時間を経て、全身状態がよければ可	2～5日	飛沫 接触
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157、O26、 O111等)	激しい腹痛ではじまり、数時間後水様性の下痢を起こす。血便も起こる。嘔吐、嘔気がある。発熱は軽度。	症状により園医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	3～4日	接触 経口
感染性胃腸炎 ・ロタウイルス ・ノロウイルス (小型球型ウイルス) ・アデノウイルス など	嘔吐と下痢が主症状であり、脱水症状に注意を要する。ロタウイルスでは下痢便が牛乳のように白くなります。	園医その他の医師において伝染の恐れがないと認められ、下痢・嘔吐症状から回復し、普段の食事ができるまで	1～3日 ノロウイルス は12～48時間	経口 接触 空気 (エアゾル 化した吐物 から)
結核	初期は自覚症状なし。X線で発見されることが多い。疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩凝り、せき、たん。	症状により園医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	2年以内 (6カ月以内 が多い)	空気 飛沫 接触 経口
流行性角結膜炎	涙がよく出る。目やに、異物が入っている感じ。結膜が充血する。	症状により園医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	2～14日	飛沫 接触
急性出血性結膜炎	きつい充血、出血してくる。	症状により園医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	1～3日	飛沫 接触 経口
髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎の症状(頭痛、発熱、首が硬くなる、痙攣、意識障害、大泉門膨隆など)	症状により園医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	2～4日	飛沫 接触